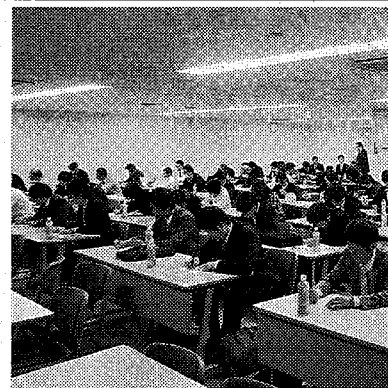


(第三種郵便物認可)



加した力電専門店、飲食店など異業種にも広が、受注拡大を目標が指す。受注先にはリフォームの施工に必要な採寸方法を指導するなど、効率的に事業展開できる仕組みづくりも検討してい

工場内ポンプ設備の液体漏れなどを防ぐ流体シール販売のアイシー（本社名古屋市中東区社台、塚田譲社長、電話052・778・0700）は6日、名古屋市中村区の名古屋国際センターでシールの最新技術な

アイシー設備保全でセミナーを紹介するセミナーを開催した。製造業の設備保全担当者ら50人が参加した。同社は米大手のシールメーカー、チエスタートン社の製品を中部地区で販売している。セミナーでは、チエスタートン社の松西研治



氏が「明日から使える新技術」をテーマに講演した。アイシーの塚田社長は、設備保全担当者らが参加する設備に対し、チエスタートン社の製品がどう活用できるかなどを紹介した。身ぶり手ぶりを交えた講師の熱心にメモをとる

超音波溶着器、真空パック器、捕虫器、シーラー、その他繊維機器を扱う朝日産業（名古屋市中東区、http://www.asahi-sg.co.jp/）。2011年に発売した真空パック器「吸太郎」は、市販の真空袋が使えてコストダウンを実現したものの、最初は多くのクレームが来る商品だった。

# 失敗から学ぶ

食品問題に真剣に取り組格機器として発売したのみ、ユーザーの要望に応える製品を開発している同社。真空パック器は食品廃棄問題の解決に貢献するものだ。それまでの業務用真空パック器は一般的に20万〜40万円ほどで高額だった。それほど高い機能を必要としない人たちが、もう少し抑えた価格のものを求めた。

低価格を実現も  
そこで機能を抑え、低価

## 部品破損や動作不良など発生

り、ふたは手動で開ける半自動タイプ。大きな違いはないようにも思えるが、この違いだけでも電磁石やセンサーの有無に関わるので、大きな価格差だといつ。また、「吸太郎」は市販の真空袋が使えるので、専用の袋が必要な機器よりランニングコストを抑えることもできる。

## 品質維持へ生産管理を徹底

この「吸太郎」は中国製の真空パック器にヒントを得て開発した製品だった。同社では初の海外生産の製品となり、スタッフが中国に行き、しっかりと技術指導して生産を始めた。サンプルはうまくできたが、量産を始めたところ、なかなか細かいところまで目が届か



なかつたこともあり、部品かがわれた。早速改良に動の破損、動作不良などの不具合が生じてしまった。そのため素材を変え、日本人スのおかげでクレームも寄せられた。初の海外生産が、思わぬ失敗につながった。

6次産業に貢献  
ただ、「安くて良い機器なので、早く修理してほしい」というクレームからは、製品そのものの価格や機能には満足していることがう

この失敗で、ユーザーが望む価格の中で品質を高めることの難しさ、に、あらためて気づかされたといつ。結果的に「吸太郎」は、同社でも群を抜く大ヒット製品となった。食品の鮮度保持に最適な製品として6次産業の活性化に貢献しているとの自負もある。

## 住宅の幅広い情報提供

愛知ゆとりある 住まい推進協議会 冊子作成し配布

5」を作成、住宅担当窓口示場などで配布冊子はA4「住まいづくとして、住宅計画や税制度住宅総合展示ームといった耐震、環境、などに対応し配布を開始し良かった住まい